

おお大勝利

平成 20 年度山東サッカー部報第 6 号 (5 月 27 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県リーグ 新東に劇的逆転勝ち

5 月 18 日 (日) 県リーグ第 2 節が行われました。山東は第 1 節モンテユースに大敗しており、3 年生が引退する前に少しでも勝ち星を拾いたいところ。第 2 節の相手は昨年山形中央と入れ替え戦を戦った強豪新庄東。そして選手権の第 1 ラウンドで山東新人チームが新東を破り、7 月に新東 3 年生を引退に追い込んだ経緯があり「遺恨ある」相手。

新東は中盤のタレントが豊富で、ボールを奪われずに安定したパスを前線やサイドアタッカーに供給でき、技量に劣る山東は押し込まれる。新東はキーパーから DF、DF から MF・FW と、しっかりビルド・アップし丁寧に攻撃を組み立てる。対して山東は押し気味の展開の中でボールを落ち着けることができず、ただ前線に放り込んで撥ね返される雑な攻めが目立つ (前半は風下だったことも「雑」になった原因として挙げられますが、言い訳にしかならないでしょう)。そうした中、サイドから突破され山東ゴール中央でルーズボールになったところを豪快にミドルで決められ、失点。前半何とかその 1 点にしので 0-1 で折り返す。

ハーフタイムにて、後半は風上に立つがボールを不用意に上げないこと (ゴロでボールを回すこと) を徹底しないと結局雑な攻めを繰り返すだけであると強調。後半は少しずつ山東が押し込む時間が増えシュートも多くなるが、風下の中でも新東は鋭い攻撃を見せ、山東ゴールを脅かす。前半同様、新東が押し気味に試合を進める。残り 10 分になったところで、山東はたびたび試しては来たがこれまで結果が出ていない 3-4-3 のシステム (DF を一人減らして FW を増やす攻撃的システム) に変え、リスクを負ってもがむしゃらに点を取りに行く。トップには守りの要の柏倉を起用。今回そうした「一か八か戦法」が功を奏し、失点シーンのようなゴール前のこぼれ球を左足で**柏倉**が突き刺し、後半 38 分に同点。その後、新庄東の決定的チャンスがポストに嫌われた後、山東の左からのセンターリングに対し、前にいる相手 DF のさらに前に体を無理やりねじ込みつつターンした**すばらしすぎるフレー**から柏倉が再び決めて、後半 44 分に逆転に成功。そしてそのままタイムアップ。それまでの苦戦が嘘のような終盤の爽快な逆転劇を味わうことが出来ました。

今回のゲームは完全な負け試合を拾った「もうけもの」にすぎません。もちろん山東の粘りが勝利を呼んだといえますが、あまりに不安定すぎるゲーム展開に「心底喜ぶこと」は到底出来ませんでした。もう少し内容を良いものにしないと県総体では危ないことを痛感した勝利となりました。**内容でも勝るような試合を目指して、県総体戦ってきます!**